

令和3年度 花園第二こども園 自己評価分析と今後の課題

園内評価より	
I 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度とほぼ同様に、「よくできている」「まあまあできている」がほとんどを占める。環境の構成については、すべての設問に対し、半数以上の職員が「よくできている」と回答。園内研修(DIY)を通して、環境の大切さに気が付いたようである。 ・園長や主幹教諭との話し合いが少ないことが課題
II 保育の在り方、幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの関わりは全体的に評価が高い。
III 保育者としての資質や能力・良識・適性	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの職員が、保育者としてのマナーや義務の理解、組織の一員としての自覚は有と評価。 ・「周りを感じ取れる感性・アンテナ」について「あまりできていない」と評価している職員へのフォローが必要
IV 保護者への対応・守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね保護者への対応守秘義務についての評価は高い ・保護者面談やアンケートの結果を考慮した保育をしていないと評価する職員も3割弱いることより、その部分の強化が必要だと思われる
V 地域の自然や社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との挨拶などは「できている」と評価。 ・小学校との連携について評価がばらついており、担当する子どもの年齢によって興味関心を持つ度合いが変わってくるのが推察される。小学校との連携について全職員が興味を持てるような工夫が必要である。 ・今回、コロナ禍の影響で地域の福祉施設との交流事業が軒並み中止となったため、高齢者との交流についての評価が低くなっている。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・概ねできているという評価が多い。 ・「園内の環境に関する専門性の向上」の評価が低くなる傾向がみられる。再度学びの場を確保することが必要だと思われる。
VII 保育の在り方、3歳未満児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての項目において「できている」という評価が多くみられる。 ・その中で低めの評価をしている職員の個別フォローが必要。

利用者評価より	
★家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・「園での様子を伝えられているか」の問いで「どちらともいえない」が増加。コロナ禍の中で、園内に入れず、送迎も玄関先になってしまったことも原因の一つと考えられる。 ・子育ての悩みについても保育者に相談できると回答した家庭が9割以上。保育者の自己評価とも一致する。
★カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・園の基本方針や保育方針に関して、「知っている」「少し知っている」との回答が9割以上。また、わが子が充実した園生活を過ごしていると感じている家庭も9割以上。 ・園が子どもの人権を守っており大切にしているという評価は8割を超え、園内の評価とも一致する。
★環境	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の清掃環境、雰囲気に関しては高評価であるが、「どちらともいえない」という回答が例年に比べて目立つ。やはり園内に入れないことが影響しているようである。 ・保育者のコミュニケーションや言葉遣い、あいさつについても概ね評価が高いが、1割程度「時々気になる」「どちらともいえない」がみられる。こちらもコロナ禍での保護者と保育者とのやり取りが難しかったことに起因すると思われる。 ・保育者側が自己満足に終わることなく、利用者との関わりをもう一度園内で見直すことが必要である。

※令和3年度の利用者アンケートも、メール連絡網を使ったオンラインでの回答となった。回収率は62%、昨年度に引き続き、回収率は例年並みをキープ。コロナ禍が進む中で、オンラインの活用が浸透してきた結果かと思われる。